

●2015年度日本語教育シンポジウム

(2016年3月4日～6日, メキシコ: メキシコシティ)

報告者: 佐藤梓 (北海道大学大学院生, 参加者)

2016年3月4日～6日の3日間, 国際交流基金の助成を受け, 社団法人メキシコ日本語教師会主催 2015年度日本語教育シンポジウムが日墨協会日本語教室で開催された。今回はメキシコ国内からの参加者に加え, 日本, アメリカ, 中南米地域など国外7か国からの参加があった。参加者数は, メキシコ国内から112名, 国外から25名, 計137名であった。本シンポジウムを主催したメキシコ日本語教師会は, 2003年に法人化された団体であり, 現在, 会員は約130名である。年間を通じ, シンポジウムのほか, 夏期短期講座や地方勉強会, 全国弁論大会および地方弁論大会や研修会を開催している。本シンポジウムは, 毎年, 海外(主に日本)から日本語教育の専門家を招聘している。総会も開催されるため, 会員が一同に集まるこの機会は, 他の地域や国外在住の会員との交流の場としても貴重な場となっている。

今回は, メキシコ日本語教師会特別企画「メキシコ日本語教師会の歴史を振り返る」と題し, 開会式直後に, メキシコにおける日本語教育の歩みやこれまでの活動内容とその意義についての発表があった。この発表ではこれまでの流れを振り返るだけでなく, メキシコの日本語教育やメキシコ日本語教師会の今後の課題などを来賓や参加者と共有する場となり, 大変意義あるものであった。

1日目の基調講演及び2日目の講義では, 「会話ができるとは, そして, できないとは—会話能力の原点とその育成—」をテーマに, 南山大学人文学部日本文学学科教授鎌田修氏による講演が行われた。講演では, 会話能力とは何か, 会話活動の成立やその環境, 会話能力の測定と評価について学んだ。2, 3日目のワークショップでは, 様々な環境における日本語会話の測定と評価について考える場となった。3日目の最後に「会話能力の向上に向けて: 学び方と教え方」としてパネルディスカッションが行われた。参加者から3日間を通じて出てきた質問等を募り, 鎌田氏や他の数名のパネラーが答える形式で進められた。

また, 1, 2日目には, ここ数年実施されていた教室活動や自主勉強会, プロジェクト報告などのポスターセッションに代わり, 時間を大幅に増やした上で, 口頭発表の時間が設けられた。今回はメキシコ国外からの発表が多く, 国内から5本, 国外から8本の発表があった。発表では, 多読に関連した授業実践, 会話活動の試み, 自律学習に関連する視点からの学習法や指導法, メキシコやカリブの地域事情に関する研究報告などさまざまな発表が行われた。メキシコ国外からの発表が増えたことは, 最新の研究動向などを知る機会となり大変有意義であった。その反面, メキシコ国内からの発表が少なく残念であった。開催後のアンケートには, 実施方法にさまざまな意見が寄せられており, 検討が必要であろう。来年以降も参加者にとって学びある発表の場となることを期待したい。

次回の開催は2017年3月の予定である。詳細については, 社団法人メキシコ日本語教師会ホームページ (<http://nihongomx.com/index.php>) を参照されたい。